

〔遺伝・育種資源の収集・保存（大島管内）〕

## 大島における 11 月アシタバ播種の被覆が発芽率に及ぼす影響

上原恵美・竹内 純・久保田 聡・本橋浩紀  
(島しょ農林水産総合センター大島)

---

【要 約】大島で 11 月のアシタバ播種時に不織布で全面被覆をすると、発芽率は 15.3% 上昇した。この要因の一つとして、全面被覆することによって地温が無被覆区に比べ日平均温度が 1.6℃上昇したためと考えられた。

---

### 【目 的】

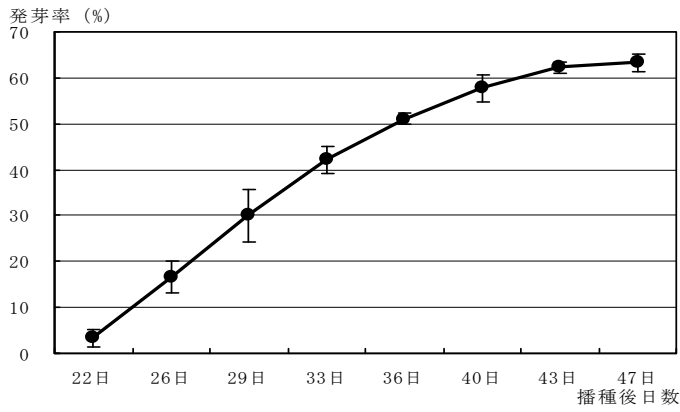
大島管内ではアシタバの播種は 3 月に行われることが多いが、近年 11 月に播種し翌春季から収穫する農家が増加している。また、播種後に不織布で全面被覆することが多い。そこで 11 月播種後の被覆がアシタバの発芽率に及ぼす影響を検証する。

### 【方 法】

- 1) 耕種概要：アシタバ種子（2008 年八丈採取）を 2008 年 11 月 19 日播種し、覆土は薄く土をかけた。被覆資材を全面被覆し、資材の端は U 字ピンで留めた。
- 2) 設置区：①連続繊維不織布区（商品名：べたがけ一発；以下、不織布区）  
②無被覆区；3 反復  
各区 1 m50 cm に 300 粒すじ播きし、発芽に支障のないように土壤水分を管理した。
- 3) 調査方法：地温変化は地表下 1 cm を測定し、発芽個体数を調査した。

### 【成果の概要】

- 1) アシタバ種子（2008 年八丈採種）は 15℃恒温器内で、播種後 47 日目に発芽率 63.3±0.6% でその後も増加しなかった（図 1）。
- 2) 地温は不織布区が無被覆区に比べて高い温度を維持し、日平均地温は不織布区で 11.9℃、無被覆区は 10.3℃だった。不織布区の最高地温は 23.5℃で無被覆区に比べ 2.5℃高く、最低地温は 7.8℃で 1.5℃高かった（図 2）。
- 3) 不織布区は、播種後 30 日を過ぎて発芽が観察され無被覆区に比べ発芽勢は高く、播種後 70 日前後で 38.3% の発芽率になった。一方、無被覆区は発芽するまでの日数を要し播種後 70 日前後で 23.0% であった（図 3）。
- 4) 不織布区の播種後 70 日の発芽率は、無被覆区の約 1.7 倍であった。
- 5) 不織布区では、播種後 60 日を過ぎて、ネキリムシ類が発生し一部食害された。無被覆区では、食害はなかった。
- 6) まとめ：11 月下旬～12 月に最低気温が下がっていく（図 4）が、不織布をべたがけすると地温が日平均で 1.6℃上昇し、発芽率が無被覆区に比べて 15.3% (1.7 倍) 上昇した。11 月播種においては地温を上昇させることが、発芽率を上げた一因として考えられる。
- 7) 留意点：不織布区は地温が高く維持されるためネキリムシ類の発生が予想されるので防除が必要である。



※12cmポット (パーミキュライト培地) に30粒播種。3反復

図1 アシタバ種子 (2008年産八丈採取) の発芽率 (15°C)

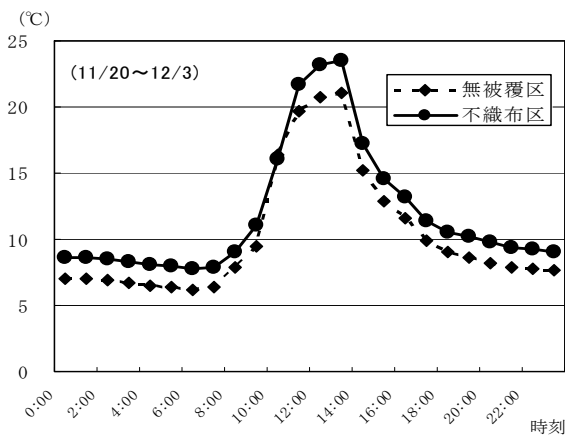


図2 被覆中の地温変化

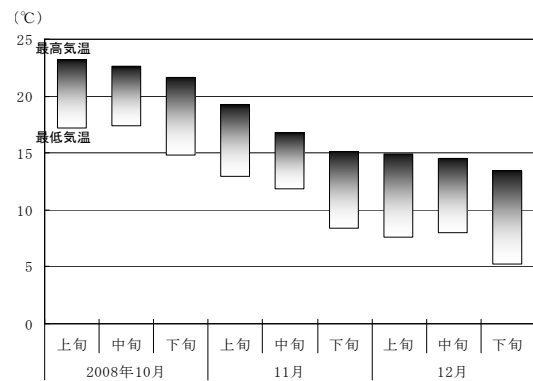


図4 2008年10~12月の最高最低気温 (大島測候所データ)

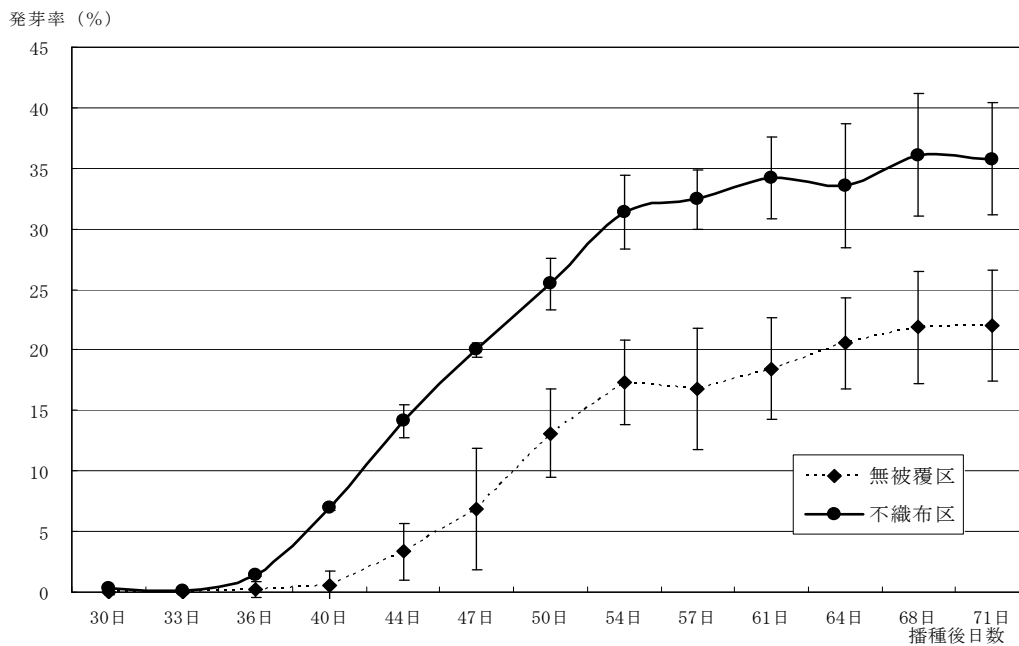


図3 被覆資材が発芽勢に及ぼす影響